

京都市左京区鞍馬二ノ瀬町の文化遺産調査

西田 陽子
(文学部 歴史学科 3 回生)

1 景観



写真1

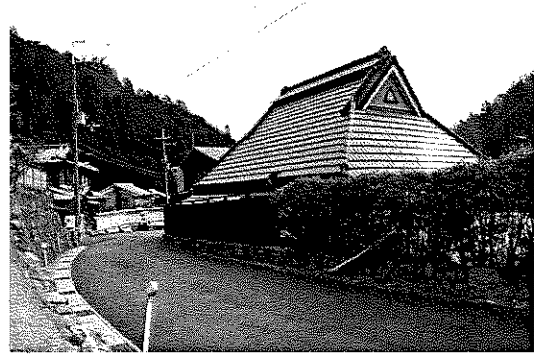


写真2

叡山電鉄二ノ瀬駅から村が一望できる（写真1）。入母屋造りの民家が点在する一方、新しい住宅がいくつか見られるのが印象的であった。京都に比較的近く、叡山電鉄や京都市バスなどの交通機関が揃っているからであろう。こうした景観もこの地域の特徴と言えるのではないだろうか。



写真3



写真4

民家の一部には屋根の妻側に様々な家紋がみられた（写真3）。「水」と書かれたものや丸のなかに「=」が書かれたものがあった。また、一見同じように見えるものでも各家ごとに異なっていた。村の中を歩いていると、妻面の外壁を梁組などで飾っている家も見かける（写真4）。

2 愛宕灯籠



写真5



写真6

村の中を歩いていると、あちらこちらに不思議なものが目に入る（写真5・6）。村の方によると、これは愛宕灯籠であるという。右側の灯籠には愛宕の札を入れ、左側の灯籠には火を灯すための蠟燭台がある。村にはこの形の愛宕灯籠が6か所あるといい、今回の調査では4か所見つけることができた。愛宕灯籠は、「口町」「河原町」など村内をさらに区切った「町」ごとに置かれ、それぞれ管理されているという。



写真7



写真8

右側の灯籠の後ろには木を交差させたものが取り付けられている。その先には櫓が紅白の糸で括り付けられ、その上から奉幣を巻き固定されている（写真7）。櫓は通常仏事に用いられるものであるが、京都の愛宕神社の神事では櫓ではなく、櫓が使われている。左側の灯籠の内部は、中央に蠟燭が立てられ、塩と酒が供えられている（写真8）。火は正月・5月・9月の23日に灯されるという。

3 奉先堂碑

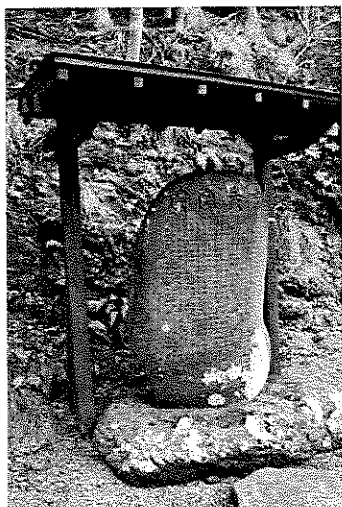


写真 9



写真 10

奉先堂は二ノ瀬村を領した儒学者林家の家廟である。堂は延宝2年（1674）に建てられ、羅山の遺品や遺像を納めて奉先堂と名付けられた。しかし明治維新以後は荒廃し、現在は左の写真に写る宝暦8年（1758）に建立された碑のみが残っている（写真9）。碑を覆う屋根は、平成14年（2002）に行われた京都市の調査時にはなく、それ以降に建てられたものであることが分かる。また、奉先堂碑の傍には石造物が3基置かれていた（写真10）。

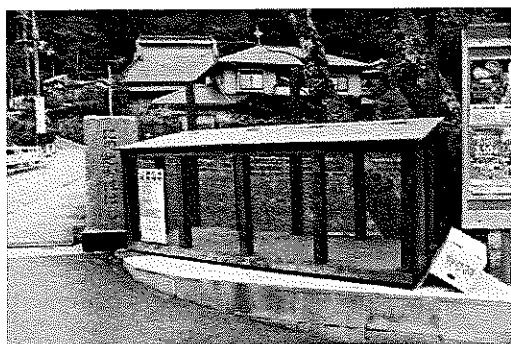


写真 11



写真 12

奉先堂への道しるべとして、以前では村の二ノ瀬大橋のたもとに道標が置かれていた。しかし、一年前にゴミ捨て場が設置されると、道標は叡山電鉄二ノ瀬駅の傍に移動されたという（写真11）。調査時には道標は倒れたままになっていた（写真12）。道標には「明治四十一年拾一月」「京都府師範学校教員生徒立」との銘が刻まれている。

4 守谷神社



写真 13

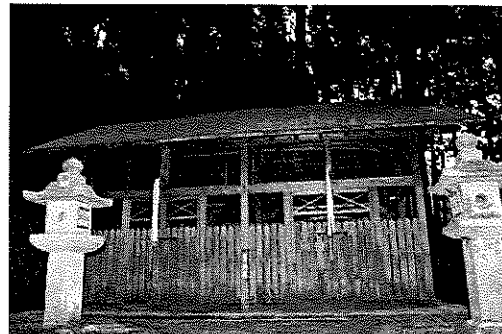


写真 14

二ノ瀬村の氏神は守谷神社である（写真 13）。現在では守谷神社と富士神社が合祀されているが、その理由としては、近年洪水のため二ノ瀬山腹にあった守谷神社が壊れてしまったので、富士神社が合祀したそうである（写真 14）。氏神祭は3月25日で、毎年11月第2の酉の日にお火焚が行われる。守谷神社の祭神は惟喬親王、富士神社は惟喬親王の母である紀静子である。境内の由緒書によると、惟喬親王は洛北の山里の開地を開拓し、貞観4年（862）に二ノ瀬に仮居し里人らに挽物の業を教え木地挽物の祖神として仰がれているという。

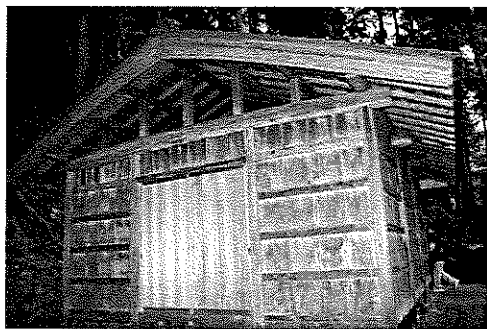


写真 15



写真 16

本殿へ行くまでに御堂が左手にある（写真 15）。御堂の中には文書を書き写した木板が左右の壁面に飾られている。また石灯籠の奉納や本殿の遷替に際し出資した者の一覧が書かれたものもある。絵馬は「三十七八年 征露記念」と書かれたものが2枚（明治39年6月）、馬が描かれたものが2枚あり、梁の上に飾られている（写真 16）。

5 調査風景



写真 17

バス停の傍には愛宕燈籠が立っていた。村の方に教えていただくまで、誰も愛宕燈籠とは気付かなかった。

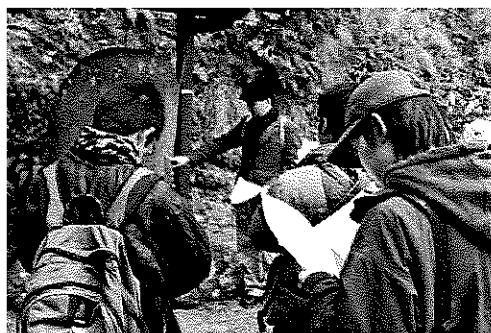


写真 18

東先生から奉先堂碑の説明を受ける学生たち。碑に刻まれた字は薄れて読みにくいため、配布された資料を読んでいる。



写真 19

奉先堂碑からさらに山奥へ進むと大日大聖不動尊が鎮座している。奥に小さな滝があり下方の村へと流れている。



写真 20

神社内の灯籠の銘文を読む。日も暮れる中、ライトを照らして黙々と銘文を記録している。

調査日 2013年2月12日

【参考文献・参考HP】

フィールドミュージアム京都 いしぶみデータベース (2013年2月25日最終閲覧)

<http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/ishibumitop.html>

「鞍馬村誌」(『洛北誌』所収) 大学堂書店 1970年

文化遺産調査記録 1 守谷神社 石造物

①石碑

(正) 東 守谷神社
西 富士神社

②石灯籠

(正) 獻燈
(右) 笑楽亭明友社中
(左) なし
(背) 明治十四年巳秋

③石灯籠

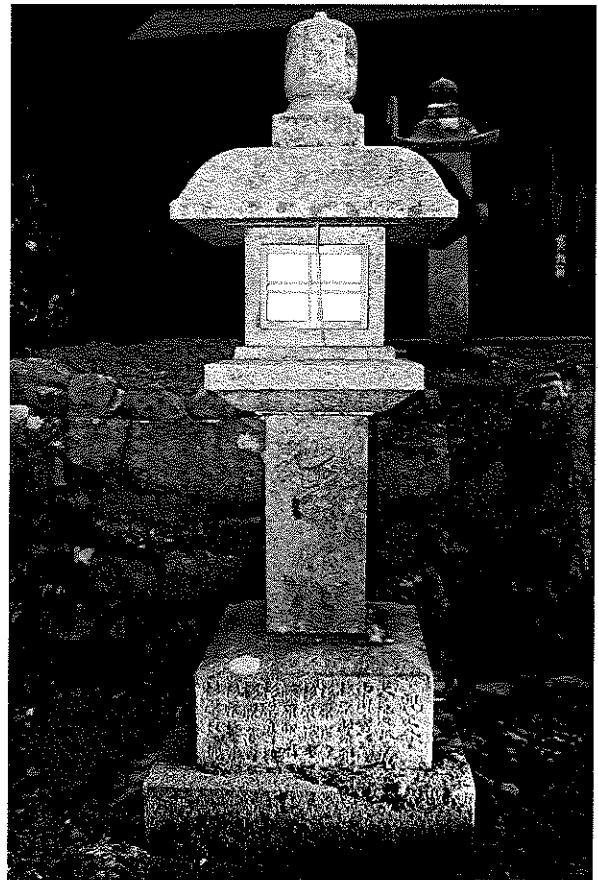
(正) 獻燈
(右) 松本平治
杉原勘治
杉原仙之助
(左) 大坂
吉田権兵衛
高橋典口
杉原駒吉
(背) 明治十四年巳秋

④手水鉢

(正) 文化十二乙亥年三月吉日

⑤石灯籠

(正) 奉燈
(右) なし
(左) なし
(背) 大正六年十月建之
(下部) 親交會々員
大森治良兵衛
中川秀三郎
杉原助治郎
杉原庄吉



⑤石燈籠 (正面) 写真 21

活用事例1 二ノ瀬の文化遺産調査

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 杉原藤吉 | 2 奉先堂関係石造物 |
| 今江甚太郎 | |
| 藤原卯之助 | |
| 田中徳松 | |
| 杉原亀四郎 | |
| 杉原亀吉 | |
| 杉原彌三郎 | |
| 今江米郎 | |
| 安達甚太郎 | |
| 河北鶴之助 | |
| 今江孫二郎 | |
| 杉原孫治 | |
| 石造物(1) | |
| (正) □土榑晒亭今江清 | |
| 石造物(2) | |
| (正) 二ノ瀬領 | |
| 石造物(3) | |
| (正) 二ノ瀬領 | |
| 奉先堂跡への道標 | |
| (正) 林家奉先堂道 ^碑 | |
| (右) 明治四十一年拾一月 | |
| 京都府師範学校教員生徒立 | |
- ⑥石灯籠
⑤と同じ
- ⑦石灯籠
(正) 城州愛宕郡小野庄二之瀬村
郷土紀氏末流小篠清尚建之
(右) 左
奉獻為大願成就西御神前石燈籠
(左) 今江宗右衛門清英
同 利右衛門宗長
同 紀氏末孫
同 三右衛門清之
山本圓清禪門
(背) 元文三戊午年九月吉辰
- ⑧石灯籠
(正) (銘文ナシ)
(右) 獻燈
(左) 村中
(背) 文政四年辛巳十一月

京都地域情報・文化遺産データベースの企画・展開・活用
—明治期の「郡村誌」と近世村町別文書一覧—

編集 東 昇（京都府立大学文学部歴史学科准教授）

発行 京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2013年3月31日

印刷 株式会社 双林印刷社

〒601-8106 京都市南区新千本通十条下ル
